

富岡製糸場

フランスの技術を導入した
日本初の本格的製糸工場

歴史

1859（安政6）年の開港後、日本の輸出品の大半を占めていた生糸の品質向上と増産を図るため、明治政府は1872（明治5）年に富岡製糸場を設立しました。富岡製糸場には蒸気機関やフランス式繰糸器等の西欧技術が導入され、ここから日本全国に器械製糸技術が伝えられました。製糸場は民営化後も製糸技術開発の最先端であり続け、さらに養蚕業と連携した蚕の優良品種（一代雑種）の開発と普及を主導しました。1952（昭和27）年には開発されたばかりの自動繰糸機を本格的に導入し、オートメーション化のモデル工場となりました。しかし、1987（昭和62）年、生糸の世界的な価格競争の影響を受け富岡製糸場は操業を停止し、115年間続けた生糸生産の幕を閉じました。



▲東置繭所



▲繰糸所内部



▲東置繭所



▲鉄水溜



▲首長館（ブリュナ館）

見どころ 歴史を物語る壮大な建物群

富岡製糸場には創業当初の明治初期の建物が、ほとんどそのままの形で残されています。これらは日本で最初の大規模な工場建築であり、また和洋の技術を混合した特徴をもっています。

●繰糸所

繭から生糸を作る施設で製糸工場の中心となる建物です。長さ140mもある長大な木骨煉瓦造建物で、内部には操業停止時の自動繰糸機が完全な形で保存されています。

●東置繭所・西置繭所

敷地の東と西に1棟ずつ長さ104mの二階建ての繭倉庫があります。

●鉄水溜（※通常は非公開）

1875（明治8）年に設置された工場用水の貯水槽です。国産の鉄製構造物としては最古級のものです。

●首長館（ブリュナ館）（※通常内部は非公開）

建設・操業を指導したフランス人、ポール・ブリュナが家族と暮らしていた住宅です。

見学案内

場 所：富岡市富岡1-1
見 学：9:00～17:00（受付は16:30まで）、団体は要予約（ネット・FAX予約のみ）、休場日12月29日～31日（点検・整備等の臨時休場あり）
料 金：大人1,000円、高校・大学生（要学生証）250円、小中学生150円
交 通：上信電鉄上州富岡駅から徒歩で約15分。上信越自動車道富岡ICから無料駐車場まで車で約10分＋徒歩20分 敷地内に駐車場はありません。
※最新情報、見学の案内、団体予約は下記問い合わせ先・サイトへ。
問い合わせ：場内総合案内所 TEL0274-67-0075
※団体予約の問い合わせ 予約センター TEL0274-67-0088
ウェブサイト：<http://www.tomioka-silk.jp/>



田島弥平旧宅

瓦屋根に換気設備を取り付けた
近代養蚕農家の原型

歴史

田島弥平旧宅がある島村は、江戸時代から蚕の卵（蚕種）製造の盛んな地域でした。田島弥平は良い蚕種をつくるための養蚕法を研究、通風を重視した「清涼育」を大成し、1863（文久3）年に越屋根のある住居兼蚕室を完成しました。弥平が著した『養蚕新論』、『続養蚕新論』によりこの構造は各地に広まり、日本の近代養蚕農家建築の原型となりました。また、弥平らは1879（明治12）年から1882（明治15）年までイタリアに蚕種を運び、現地で直接販売（直輸出）を行いました。この際に西欧の文化と共に持ち帰った顕微鏡で弥平は蚕の病気の研究を行いました。富岡製糸場が繭の改良運動を始めると、田島家は外国種や一代雑種の試験飼育に協力しました。

見どころ『養蚕新論』に描かれた姿

田島弥平旧宅には、住居兼蚕室をはじめ蚕種製造に関わる各種建造物が残されています。

●住居兼蚕室

換気設備である越屋根（櫓）が付いた瓦葺き総二階建ての建物です。一階が住居で二階が蚕室となっています。通風を重視し窓が多く越屋根は棟部全体にわたって造られました。二階の北隅には後に顕微鏡室が増築されています。

●桑場

この建物では桑を一時的に保管し、蚕の成長に合わせて食べやすいように桑の葉を加工していました。

●井戸

この地域は洪水が多かったため、生活や蚕種製造に大切な井戸は住居の基礎より高めに積んだ石垣に囲われています。



▲『養蚕新論』挿絵



◀桑場

▲井戸



▲住居兼蚕室

見学案内

場 所：伊勢崎市境島村2243

見 学：個人住宅のため見学可能範囲は庭及び桑場1階。
その他の建物内部は非公開。団体は要予約。

交 通：JR本庄駅からタクシーで約20分。

関越自動車道本庄児玉I.C.から車で約20分。

駐車場は「島村蚕のふるさと公園」と田島弥平旧宅案内所前。

関連施設：田島弥平旧宅案内所(9:00～16:00)に展示有り。年末年始休業。

※最新情報、団体予約は田島弥平旧宅案内所へ。

問い合わせ：伊勢崎市文化財保護課TEL0270-75-6672

田島弥平旧宅案内所TEL0270-61-5924

ウェブサイト：<http://www.city.isesaki.lg.jp/>

MAP



高山社跡

日本の近代養蚕法の標準「清温育」を開発した場

歴史

高山長五郎は繭の増産と品質向上のための研究を行った人物で、換気と温湿度管理をきめ細かく行う「清温育^{せいおんいく}」を確立し、その普及のため1884（明治17）年に養蚕教育機関「養蚕改良高山社」を設立しました。高山社では、その学校に日本国内のみならず中国や朝鮮半島からも生徒を受け入れ、また現地に出向いて養蚕の指導を行う授業員の派遣も国内、中国、台湾、朝鮮半島に及びました。これにより「清温育」は日本の近代養蚕法の標準となりました。「清温育」の発祥地であるこの地は、長らく養蚕の実習場として利用されました。富岡製糸場が繭の改良運動を始めると、高山社は外国種や一代雑種の試験飼育、農家への飼育指導等に協力しました。



▲住居兼蚕室



▲長屋門

見どころ 風と火を操る蚕室

高山社跡には、「清温育」を行うための理想的な住居兼蚕室や、分教場時代の施設が残されています。

●住居兼蚕室

1891（明治24）年に建てられたもので、越屋根は田島弥平から学びました。換気のための工夫は、大きな掃き出し窓、欄間、蚕棚の下を通気口、すのこ状の天井などで、温度調節の工夫は一階の囲炉裏、二階の火鉢置き場、床面の通気口などがあります。二階の蚕室は6室に仕切られ部屋毎に温湿度の調節が可能でした。

●桑貯蔵庫

桑を一時的に保存する施設です。現在は地下の石積み部分が残りますが、かつてはこの上に建物が建てられていました。

●長屋門

江戸時代に建てられたもので、養蚕道具をはじめとする農具の保管や物置として利用されました。



▲桑貯蔵庫



▲蚕室内部

見学案内

場 所：藤岡市高山237
 見 学：9:00～17:00、団体は要予約、休館日12月28日～1月4日
 交 通：JR群馬藤岡駅からバス約35分、JR新町駅からバス約35分。
 上信越自動車道藤岡I.C.から車で約20分。
 ※最新情報、団体予約は下記問い合わせ先へ。
 問い合わせ：藤岡市文化財保護課 TEL0274-23-5997
 高山社情報館 TEL0274-23-7703
 ウェブサイト：<http://www.city.fujioka.gunma.jp/>

MAP



荒船風穴

自然の冷気を利用した
日本最大規模の蚕種貯蔵施設

歴史

日本の養蚕は古代から年一回春に行うのが一般的でした。19世紀後半になると、夏でも低温の風が出る風穴と呼ばれる場所に蚕の卵（蚕種）を貯蔵して、ふ化の時期を調節し、年複数回の養蚕を行う試みが始まりました。高山社で学んでいた庭屋千壽がこの地に冷風の吹き出す場所を見つけると、その父静太郎は1905（明治38）年から1914（大正3）年にかけて、気象学や養蚕、土木の専門家の指導を得ながらこの蚕種貯蔵風穴を建設しました。

荒船風穴は国内最大規模の貯蔵規模を誇り、国内40道府県をはじめ朝鮮半島からの蚕種も貯蔵し、養蚕の多回数化を支え繭の増産に貢献しました。また、富岡製糸場が繭の改良運動を始めた際には、試験飼育用の蚕種を預かるなどの協力を行いました。



▲1号風穴(右手前)



▲2号風穴

見どころ 夏でも冷風が吹き出す石積み

荒船風穴の周辺は、岩の隙間から夏でも2℃前後の冷風が吹き出しています。この冷風を利用するために、山の斜面に石積みを築き、そこに土蔵造りの建屋を設け蚕種貯蔵風穴としました。山側の石積みは冷風が通るように隙間があり、谷側の石積みの外側には冷風漏れを防ぐために目地止めがされています。風穴の内部は地下二階、地上一階の三層構造で、蚕種を搬出する時期に合わせて貯蔵場所を使い分けていました。現在も風穴の石積みが残されており、最初に建設された一番奥（谷の上流部）の風穴を1号風穴、中央の一番大きなものを2号風穴、最後に建設された手前のものを3号風穴と呼んでいます。また、3号風穴の脇には平地を造成し、番舎と呼ばれる管理棟が建てられていました。

見学案内

場 所: 甘楽郡下仁田町南野牧甲10690-2外
学 期: 9:30 ~ 16:00 (受付は15:30まで) 団体は要予約。
冬期(12月~3月)は見学不可。風穴内部は立入禁止。
料 金: 大人500円
交 通: 上信電鉄下仁田駅からタクシーで約30分。
上信越自動車道下仁田I.C.から車で約50分。
周辺には交通規制あり。

※最新情報は下記問い合わせ先へ。

問い合わせ: 下仁田町歴史館 TEL0274-82-5345
ウェブサイト: <http://www.town.shimonita.lg.jp/>



▲風穴から吹き出す冷気



▲模型

